

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	くりのみ保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成 29 年 3 月 8 日

総 評	<p>伏見区にあるくりのみ保育園は、昭和47年、小栗栖・日向団地の住民「保育園を作る会」を中心に地域の要望に応え設立された保育園です。この設立のプロセスを反映するように、地域住民の願い、子どもや保護者の誰もが幸せになる拠点としての役割を果たす使命を抱き、運営にあたっています。</p> <p>保育方針として「ひとりひとりの育ちを大切に」「友達とのかかわり、心おどる行事」「知りたい、やりたい、という子どもに」「丈夫な身体と、食べることを楽しむ子どもに」を掲げ、教え込むのではなく、多様な実体験の中から子ども自身の興味・関心を引き出せるよう心がけています。</p> <p>経験年数の多い職員も多く、落ち着いた温かい雰囲気があり、子どもへの関わりや言葉がけも丁寧です。子ども一人ひとりの成長や背景の把握に努め、管理者と職員が話し合っ指導計画を作成しており、園外保育や異年齢保育を中心に、子どもたちが様々な体験活動が出来るよう配慮しています。職員の資質向上のため、個別の目標や研修計画を作成し、それらをもとに管理者との面談を毎年実施し、園の方針が保育に反映するよう努めています。</p> <p>また、地域の未就園児を対象にした子育て支援事業にも取り組んでおり、チラシの配布等によって広い範囲からの参加があります。</p> <p>今回の第三者評価は初受診ですが、園全体で自己評価に取り組むなど、改善に繋げていました。今後も今回の結果をもとにさらにより良くなるよう取り組まれることを期待します。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が長く働き続けられるよう職員の健康チェックや有給休暇消化率の確認を実施し、労働条件・労働環境等を職員会議で話し合い、無理のないシフト勤務になるよう勤めています。5年、10年、15年と勤続年数に応じて年次有給休暇以外に特別有給としてリフレッシュ休暇を設けています。 ・ 「散歩」を全ての育ちの要素を含む重点課題と捉え、公共交通機関等の利用も含め、自然や地域との触れ合いがある園外保育を行っています。 ・ 年3回～4回、保護者懇談会を開催しています。また、保護者が必ず保育参加する機会を年1回以上実施し、園の保育内容や方針に対して共通理解が持てるよう取り組んでいます。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在目視で行っている遊具の安全点検について、定期的に行うと共にチェック表などを作成し、補修を行った記録等を確認出来るようにするとより良いでしょう。 ・ 転園時には、要望があれば転園先に要録を送付しています。今後は、それらの手順を文書化し定めておくとより良いでしょう。 ・ 今後は、警察等が主催する安全研修に参加し、その内容を園で共有されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

受診施設名	くりのみ保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	2017年3月8日（水）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	非該当	非該当
	I-2-1 (2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	A
	I-3-1 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・子どもの権利条約に基づいて確立された法人統一理念を基本理念とし、その内容をもとに保育課程を編成しています。理念、基本方針は、園のパンフレットやホームページに明文化されています。職員へは、それらの内容を含め年度初めの職員会議で周知すると共に、法人新聞を年4回発行し、職員へ配布し園の方針などの啓発に努めています。また、保護者に対して、園だよりやパンフレット等に記載し、周知しています。

・園独自の子育て情報誌「くりのみネット」を年3回発行し、職員が手分けして隣接する地域全戸に配布しています。また、そのことが、園の特徴や事業を知ってもらう機会となり、入園や一時保育などの利用に繋がっています。

・保育課程を反映させた年間カリキュラムや短期指導計画は、毎月評価・反省を実施しています。前月の子どもの様子と、次月の活動の内容を並列で記述し、評価・反省が次に活かせるよう工夫しています。また、会議に出ていない職員には、会議録を回覧し、職員全員が園の方針や保育内容を理解してもらえよう取り組んでいます。

・管理者は、月1回全職会議、幼児部会、乳児部会に出席し、保育や福祉を取り巻く情勢を法人や園の理念に照らし合わせ、トップメッセージとして取り組むべき方向性を示しています。また、マニュアル冊子があり、全職員に配布し周知に努めています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-1 (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-1 (1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		II-2-1 (2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
	II-2-1 (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	A
	II-2-1 (4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	B	B
II-3 地域との交流と連携	II-3-1 (1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	A
	II-3-1 (2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

・職員が長く働き続けられるよう職員の健康チェックや有給休暇消化率の確認を実施し、労働条件・労働環境等を職員会議で話し合い、無理のないシフト勤務になるよう勤めています。5年、10年、15年と勤続年数に応じて年次有給休暇以外に特別有給としてリフレッシュ休暇を設けています。また、労働組合があり、法人と職員が労働面に対して協議できる体制があります。

・年度初めに職員が個別の計画目標をたて、年度末にそれをもとに管理者と職員とが話し合い、保育の振り返りや次年度への意向などを把握する機会を設けています。

・法人大綱の中に、保育士として専門性や資質を高める必要性を明記しています。個別研修計画を管理者と職員双方で話し合ったうえで作成し、京都市保育園連盟や京都市保育士会主催の研修を中心に全職員が参加しています。法人全体としても6施設合同の研修会を年1回実施しています。研修内容は、職員会議で報告するようになり、出席できない職員には掲示や書面でその内容を確認できるようにしています。

・実習生に対する受け入れマニュアルを作成し、それに基づき受け入れをしています。今後は、園の実習スケジュールを作成し、実習生に対して見通しを持って実習が行えるよう配慮されるとより良いでしょう。ボランティア受け入れの際は、ボランティアを希望する目的と園の現状のすり合わせを行い、受け入れるようにしています。

・毎年、民生委員と共同し、地域住民と園児と一緒に障がい施設で育てている野菜の収穫を行い、大根炊きを地域の方と一緒に食べる機会を設けたり、近隣の保育園4カ園と協働し、運動大会の取り組みや地域の高齢者施設との交流を行っています。また、未就園児を対象にした子育て支援事業として、園庭開放、ほっこりカフェと称し、親子で楽しめる手遊び教室や工作教室、離乳食の調理・試食会を実施し、子育てを通じて地域との交流を図っています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	B
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	C	B
[自由記述欄]				
<p>・プライバシーにかかる規程・マニュアルは職員一人ひとりに配布し、法人大綱にも明示されています。それら内容の変更があれば都度職員会議、回覧等で周知しています。保護者からは個人情報使用同意書をもっています。</p> <p>・初めての第三者評価受診ですが、受診に際し委員会を設置し、運営・保育内容の見直しや、マニュアル類の整理等に取り組んでいます。</p> <p>・入園面接時に保護者との面談を実施し、子どもの状況等について話し合い、保育に活かすようにしています。今後は、その内容を記録する書式を統一されるとより良いでしょう。</p> <p>・記録類の管理規程を作成し、それに準じて対応しています。今後は、その規程の中に情報開示について基準を定められるとより良いでしょう。</p> <p>・職員室に日報があり、「園長より・連絡事項・行事・会議・職員体制」について明記されており、全ての職員が目を通すよう徹底しています。</p> <p>・転園時には、要望があれば転園先に要録を送付しています。今後は、それらの手順を文書化し定めておくともより良いでしょう。</p>				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	B
⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる		A	A	

【自由記述欄】

・年2回健康診断、年1回歯科健診を実施しています。個別に配慮が日常的に必要な疾患のある園児には、健康診断時に保護者の了解のもと医師のアドバイスをもらえるよう対応しています。

・感染症発生時の対応マニュアルが整備されており、嘔吐処理については各保育室に掲示し、即対応できるよう工夫しています。

・子どもたちが育てた野菜を、園庭で、調理し食事をする機会を設けるなど、食事を楽しむ工夫がなされています。また、幼児になると当番制で配膳や後片付けを手伝います。献立内容は、職員会議で栄養士と共に協議し、幅広い意見を取り入れ、子どもの好みや必要な栄養バランスを図りながら作成されています。人気のある献立レシピは、保護者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

・園内は清潔に保たれており、手作りの玩具やソファなど、温かな雰囲気があります。今後は、現在目視で行っている遊具の安全点検について、定期的に行うと共にチェック表などを作成し、補修を行った記録等を確認出来るようにするとより良いでしょう。

・幼児は、異年齢保育を行っており、一クラスの中に3、4、5歳児が一緒に過ごしています。子ども同士の中で、多様でゆたかな友だちとの関わりを育めるよう取り組み、子ども自身の興味や関心、思いやりなどの心を引き出せるような保育を大切に考え実践しています。

・「散歩」を全ての育ちの要素を含む重点課題と捉え、公共交通機関等の利用も含め、自然や地域との触れ合いがある園外保育を行っています。様々な表現活動が出来るよう、絵画や絵本の読み聞かせ、造形活動などを保育で実施しています。

・障害児保育は、園として大切に考えており、物的・人的環境両面で園全体での対応を心がけています。延長保育は、落ち着いた環境でゆったりと過ごせるよう配慮しています。今後は、延長保育時に提供する軽食等について、お迎えに来られた保護者が確認出来るよう展示するとより良いでしょう。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	B
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]	
<p>・年1回、全ての保護者と個人面談を実施しています。それらの内容を記録していますが、今後は、その記録した内容の保存方法や、必ず聞く内容を手順化するなど、職員によってばらつきが無いよう工夫されるとより良いでしょう。</p> <p>・年3回～4回、保護者懇談会を開催しています。また、保護者が必ず保育参加する機会を年1回以上実施し、園の保育内容や方針に対して共通理解が持てるよう取り組んでいます。</p> <p>・子どもの個人記録を作成し、小学校との接続においては保育要録だけでなく、5歳児の育ちという個人記録をもとに小学校の先生と面談や文章のやりとりを実施、継続して育ちを支えられるよう工夫しています。また、園児が通う小学校に絵画作品を展示してもらうなど、交流を深めています。</p> <p>・一時保育では、地域の多様な保育ニーズに応えるために、1時間単位での利用が可能な独自の一時保育事業を実施しています。</p>	

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]	
<p>・衛生管理はマニュアルに基づいて整備しています。</p> <p>・事故防止に対するルールや改善に向けての取り組みは行っています。今後は、遊具の安全点検チェックリストや園内の安全点検チェックリストを作成し、定期的に確認すると良いでしょう。</p> <p>・不審者進入時の対応マニュアルがあり模擬訓練も行っています。今後は、警察等が主催する安全研修に参加し、その内容を園で共有されるとより良いでしょう。</p>	